

八戸市民の居住環境評価について

——「八戸市民意識調査」の結果から——

梅津光男*・戸部栄一**・月館敏栄**

A study of the residential environment assessment in Hachinohe City

——From a research on the residents' consciousness of Hachinohe——

Mitsuo UMETSU, Eiichi TOBE and Toshiei TSUKIDATE

1. はじめに—目的と方法—

1) 研究の目的

環境とは何であろうか。そして、それを評価するとはどういう意味をもつのであろうか。たとえば、一つの物を評価するにあたって、その呈示のされ方により、受けとる側が想起するものは相異なるのであって、当然のことながら評価も違うはずである。又、同一のものが同一の状況の中で示されたとしても評価する側のもつ個々の条件の違いが反映されて結果してくるはずである。

現在“アンケート”が多方面でいろいろな評価を問う目的において利用されているが、その設問の設定の仕方や方法論上の問題を真剣に考慮して行なわれているものは少なくないといえよう。特にコンピューターの機能が充実するに従って安易に統計処理上のテクニックを駆使することのみにポイントがおかれている事例が少なくない。

本研究の目的は昭和56年6月に実施した八戸市からの委託研究である“八戸市民意識調査”の結果における居住環境評価に関連の深い部分

の報告をすることと、この委託研究をケーススタディとしてアンケート調査による居住環境評価に関する問題点を考察することにある。

今回の報告は居住環境評価とアンケート調査の関係を考察するために行政により区分された17地区と市全体の結果に限定する。

2) 調査の概要

(1) 調査内容の構成

本調査は、市民の生活をとりまく諸問題やその他についての意識を把握しようとするものであるが、その調査内容は次の7つの部分から構成されている。

I 調査対象者の基本的属性

II 八戸のイメージ

III 生活環境

IV 住宅

V 暮しむき

VI 日常生活

VII 市政

設問数は33であるが、その具体的内容は参考資料「八戸市民意識調査」（調査票）を参照のこと。

(2) 調査の方法

(a) 調査対象母集団及び対象者数

調査対象の母集団は、昭和56年5月1日現在で満20才以上の八戸市民とし、この中から

昭和57年12月6日受理

* 建築工学科助教授

** 建築工学科講師